



秋晴れの空の下、そよぐ風にやさしく揺れるコスモスの花。

目次 CONTENTS

- 02 話題「13区営農組合 福島県農業賞」
- 04 特集「秋のいいたて お出かけMAP」
- 08 報告「令和5年度決算報告」
- 12 ほけんとふくし「飯館村敬老会」
- 14 空から百景「実りの秋」
- 16 報告「9月議会定例会」
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からおしらせ
- 23 いいたてなりわいREPORT
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／おしらせ

📷 今月の表紙



草野大師堂の店舗でカフェと食堂を営む地域おこし協力隊の横山梨沙さん。おいしいコーヒー、人にも環境にもやさしい食事メニューが人気で、村で暮らす人や働く人はもとより、村外からも多くの人が足を運んでいます。今月の特集「秋のいいたて お出かけMAP」もご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613までお知らせください。

13区営農組合 福島県農業賞「復興・創生特別賞」を受賞

農地を守り、価値を生み出す挑戦、耕畜連携の取り組みも評価

農事組合法人「13区営農組合」が、第65回福島県農業賞「復興・創生特別賞」を受賞しました。

同組合は、平成27年、上飯樋行政区（13区）の住民有志による任意団体として発足し、令和元年に法人化。13区を中心に集積された農地で、稲発酵粗飼料（WCS／ホールクロップサイレージ）や牧草、飼料用米などを生産しています。今年

の栽培面積は143haで、来年以降もさらなる農地の集積を計画。震災後の飯館村で、農業の再生・復興に大きく貢献しています。

表彰式は、9月2日、福島市の杉妻会館で行われ、細川強代表らが、内堀雅雄福島県知事から表彰状や盾を授与されました。細川代表は「受賞が決まった際に、メンバーから『今までやってきてよかった』と決意を述べました。

たな」と声が上がった。年寄りには（いづれ）引退の花道に、若い者には励みになる」と喜びをかみしめました。

また、9月5日には村役場を訪れ、杉岡村長らに受賞を報告。細川代表が「指導者にもグループ（メンバー）にも恵まれた。おごることなく、さらなる上を目指して精進したい」と決意を述べました。

9月5日、揃いのネクタイで来庁し受賞報告を行った組合員の皆さん。



9月2日に杉妻会館で行われた表彰式にて〈左上〉式に出席したJAふくしま未来飯館営農センターの岡田公政センター長（右端）、村産業振興課農政第一係の齋藤博史係長（左端）と共に。〈左下〉内堀知事から表彰状を受け取る細川代表。〈上〉内堀知事（前列中央）との記念撮影。



熱き思いを胸に農地の再生に挑む 農事組合法人「13区営農組合」

農地再生の担い手となるべく立ち上げた任意の団体を法人化。全組合員が関わる公平な運営を旨とし、業務の拡大を図ってきました。農地を預ける地域住民への利益還元も大切に考えています。

WCSのロールが並ぶ水田。(令和6年)



デントコーンの栽培面積も拡大中。(令和6年)



法人化当時のメンバー。(令和元年)



地域の担い手集団として活動をスタートし、広大な農地にヒマワリを植え緑肥にするなど、いち早く営農再開に備えました。令和元年秋には任意の団体を法人化。「農地中間管理事業」を先駆的に活用し、集積した農地で新たな農業の形をつくってきました。現在は、稲発酵粗飼料（WCS／ホールクロップサイレージ）や牧草、飼料用米、デントコーン、大豆（契約栽培）を生産。農地は数年内に200haまで広がる見込みで、販路についても組合が自ら開拓し、耕畜連携を拡大しています。